

持続可能な地域航空のあり方に関する研究会（第12回）
議事要旨

1. 日 時：平成29年10月27日（金）15:00～17:00

2. 場 所：中央合同庁舎3号館4階特別会議室

3. 出席者：

有識者

竹内健蔵座長、奥直子委員、加藤一誠委員、花岡伸也委員、李家賢一委員
（座長以外、五十音順）

4. 議事概要について

（1）事務局より、資料1「持続可能な地域航空に向けた抜本的な対策（中間とりまとめ別添」、資料2「抜本的な対策（組織のあり方）の比較整理」、資料3「抜本的な対策の比較検討における留意点」を説明。

（2）各委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・資料2「抜本的な対策（組織のあり方）の比較整理」は非常にわかりやすくまとめてあり、記載内容は概ね問題無いのではないかと。
- ・資料2では明示的に書かれていないが、営業職員等の地上職員がまとまることによる収益拡大効果もあるのではないかと。また、成長性の追求という視点も含め、収益性確保・需要拡大の項目は非常に重要であると。
- ・人員について、融通可能かどうかということがメインで書かれているが、特に操縦士について、地域航空会社としてどのように確保するか、という観点での検討が更に必要ではないかと。
- ・地方公共団体との関係についても大事な論点である。地方公共団体においても、広域的に事業展開することについて、地元の会社が無くなる、とネガティブに捉えるのではなく、他地域との連携によって収益拡大のチャンスがある、というように意識を変えるべきと。
- ・多くの利害関係者が関与する話であり、また、選択肢にも幅があるため、中々難しいとは思いますが、効果・課題についてできるだけ数値化し、定量的に比較して欲しい。その際、短期的に見て負担が大きいものであっても、長期的に見れば効果があるということが分かるような整理が望ましいと。

（3）事務局より、委員から提示された論点について、整理に向けた作業を行う旨の説明が行われた。